

第5期宮前区区民会議第4回会議

第5期宮前区区民会議第4回会議

- 1 日 時 平成27年2月3日（火）午後6時
- 2 場 所 宮前区役所 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 宮崎委員長、川田副委員長、佐々木副委員長、青柳委員、葛西委員、大槻委員、山田委員、黒澤委員、滝本委員、小田委員、川畑委員、青木委員、大木委員、笹川委員、田辺委員、細谷委員、太田委員、鈴木委員、中里委員
 - (2) 参 与 竹田参与
 - (3) 事務局
- 4 議 事
 - (1) 審議経過報告①（仮称）高齢者問題に関する取り組みの部会
 - (2) 審議経過報告②（仮称）魅力発信と次世代まちづくりの部会
 - (3) 部会審議内容についての質疑応答・意見交換
 - (4) 区民会議フォーラムについて
 - (5) その他
- 5 傍聴者数 3人

午後6時開会

司会（豆白） それでは、皆様こんばんは。お忙しいところ、第4回の区民会議にお集まりいただきまして、ありがとうございます。定刻となりましたので、これより区民会議を開催させていただきたいと存じます。私は本日の進行を務めます副区長の豆白でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それと、本日はレイアウトを変えておりますが、プロジェクターでパワーポイントを見るということですので、会議の中心は委員さんということで、委員の皆様からプロジェクターが見やすいようにしてございますので、決して後ろに我々がいても気を使わないで、どんどん議論していただいて結構だと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして事務連絡をさせていただきます。本日の会議の開催に当たりましては、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づきまして公開とさせていただきます。したがって、傍聴、報道機関等の取材を許可しておりますので、御了承いただきたいと思います。

また、会議録の作成に当たり速記者に同席をいただいておりますので、御協力よろしくよろしくお願いいたします。

そして、本日御発言のありました方につきましては、後日議事録の確認をお願いし

たいと存じます。なお、議事録は確認後、区役所のホームページに掲載いたしますので、御了承いただきたいと思います。

また、傍聴の方にお願いがございます。遵守事項をお守りいただき、本日、会議の終わりにはアンケートへ御協力をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日、委員、参与の出欠状況につきまして御報告を申し上げます。区民会議の委員様につきましては――川畑さんが今お見えいただきました。川畑さんから遅れるというアナウンスをしようかと思いましたが、ちょうどお着きになりました。参与につきましては、本日、市議会議員の竹田参与がお見えいただいております。どうぞよろしくお願い致します。また、石田参与、矢澤参与、土居参与からは御欠席の御連絡をいただいているところでございます。

1 開会あいさつ

司会（豆白） それでは、議事に先立ちまして宮前区長の野本から御挨拶を申し上げます。

区長 皆様、こんばんは。第4回会議に御出席をいただきまして本当にありがとうございます。先週はちょっと雪も降るなど寒い日が続いておりますけれども、こうして夜間に皆様に御出席いただけること、本当に感謝しております。

これまでほぼ1年近く御審議をいただき、先ほど資料を拝見しましたら、やはりカフェとか史跡、あるいはレストランなど宮前区の魅力を十分に研究していただき、これからの地域づくりに役立ててくださろうという皆様の意思がとても感じられるところでございます。来月には区民会議のフォーラムということで、そうした皆様の御審議の経過を一般の区民の皆様にも知っていただける機会がございます。そしてことしは区民の方も楽しんで参加できるような企画を立ててくださっているということです。こちらもとても楽しみにしております。多分御参加された区民の皆様も改めてこの地域の魅力に気づいてくださるのではないかと考えております。

きょうもフォーラムも控え、そうした充実した審議が行われることをお祈り申し上げます。一言御出席のお礼と会議に先立ちましての御挨拶とさせていただきます。本日もよろしくお願い申し上げます。

司会（豆白） どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、皆様のお手元に配付しております資料の確認をさせていただきます。

本日はクリアホルダーにおさめさせていただいております。ピカピカのできたてのほやほやの宮前区の情報発信をするクリアホルダーということで、うちの遠藤職員が

後ろにいますけれども、一生懸命考えてつくったものでございます。いろいろな機会を通じて宮前区の情報発信をするということで、第1弾のクリアホルダーということでございます。御活用いただければと存じます。

まず、A4のホッチキス留めになっています「第5期宮前区区民会議第4回会議」という資料をお持ちいただければと存じます。表紙は次第でございます。

1ページおめくりいただきますと、座席表、2ページ目、裏になります。委員、参与、事務局の名簿でございます。

3ページから6ページまでは高齢者部会の審議経過報告資料となっております。

7ページから17ページが次世代部会の審議経過報告資料となっております。

18ページ以降は、先ほど御案内申し上げました区民会議フォーラムの企画案ということで、後で事務局から御説明させていただきまして皆様に御審議いただきたいと存じます。

以上が本日の会議の資料でございます。落丁等はないでしょうか。

それと、情報提供の資料としまして、「みやまえ区民会議だより」第29号、「第7回まちづくり広場ラブみやまえ」のリーフレット、「第4回専門部会の日程調査票」というのが委員の皆様には入れさせていただいております。あと、これもできたてですけれども、「ぐるっとみやまえ」という、宮前区の転入者向け情報紙の、リニューアルしたばかりのものがお手元にあると存じます。これらの添付資料、情報につきましては、会議の終わりに関係している委員の皆様にご報告していただきたいと存じます。資料につきましてはよろしいでしょうか。

2 議 事

- (1) 審議経過報告①（仮称）高齢者問題に関する取り組みの部会
- (2) 審議経過報告②（仮称）魅力発信と次世代まちづくりの部会
- (3) 部会審議内容についての質疑応答・意見交換
- (4) 区民会議フォーラムについて
- (5) その他

司会（豆白） それでは、これより第5期宮前区区民会議第4回全体会議を開催いたします。これからの進行につきましては宮崎委員長にお願いしたいと存じます。委員長、よろしくお願いたします。

宮崎委員長 それでは、議事を進めさせていただきます。

昨年の10月30日に第3回の全体会議が行われ、この会議で2つの部会が設置されました。両方ともまだ仮称ですけれども、1つは高齢者問題に関する取り組みの部会、もう1つは魅力発信と次世代まちづくりの部会という2つでございます。その後、審議経過として専門部会と現地視察などを行いました。特に高齢者問題に関するところ

では、コミュニティカフェを何カ所も回って、どうあるべきか、ということをご皆さんでいろいろこれから議論させていただければと考えております。基本的に軸足をどこに置いて課題を明確にするかということは今後我々に課せられた課題かと思っておりますので、その辺の経緯も含め、まずは部会長から詳細にわたった御説明をいただければと考えております。それでは、よろしくお願いいたします。

川畑部会長 高齢者部会の川畑です。きょうは遅くなりましてすみません。座って報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

お手元の資料の6ページを参照しながらスライドのほうで進めさせていただきたいと思っています。

まず高齢者部会という部会名ですけれども、正式名称を考えていこうかなと検討している段階ですので、とりあえず仮称ということで高齢者部会で進めさせていただきます。

まず11月13日、第3回の専門部会以降の審議の内容、経過から報告させていただきます。

前回は、去年の10月末に開催された第3回の全体会議以降、第1回目が11月13日に行われました。この中で視察会を行いたいということで、2日間、合計3回の活動を行ったということです。まず11月13日に第3回の専門部会を開催しました。この中から、高齢者の見守りとか介護予防、あと居場所づくりについて学びを得ました。その中で、宮前区で実際に認知症カフェとかサロンをやっているところが幾つかあるということで、先進事例を見ながら今後の方向性を検討していきたいということで企画を挙げました。それ以外には、神奈川県でのよりそいノートという取り組みをしていますので、それも参考にしながら今後の方向性を決めていったということです。

まずこのカフェを見学しながら、今後、高齢者にどうやって参加してもらうとか、予防とか交流、触れ合いのきっかけをどうしていくかというのを検討していくことにいたしました。

続いて、コミュニティカフェの視察会について報告いたします。まず第1回目は、12月16日に行きました。視察場所はかわさき記念病院、これは川崎市唯一の認知症疾患専門病院ということで、平成26年5月に開設した病院です。これを見学しました。ここは医療法人花咲会というところが運営しております。病棟の風景だとか、トイレ周りだとか、お風呂場とか、そういうところを見学させていただきました。

あと認知症デイケアもやっていたので、それも見学しながら担当者の方から説明をいただいたということです。こちらはやはり新しい施設ということもあって設備が大変充実してしまっていて、多分いろいろな施設を見てからつくられたのではないかなということと、最新のベッドとかお風呂とかも、私も結構こういう病院設備を見ますけれども、かなり資金をかけながらつくった施設だなと感じました。

その後が「潮見台カフェ」という認知症カフェですが、ちょうどこれが第4回目ということで開催されていました。15名ほどの参加者でしたけれども、我々も一緒にカフェを飲みながら参加者と交わる機会を得ました。

こちらで行っていたのが、まずミニ健康講座です。ここは管理栄養士さんが、12月でしたので、年末年始のお正月、おせち料理を題材にして各参加者の方に説明をしておりました。この中では、餅がのどに詰まったときにはどういった対処をするかとか、あとはクリスマスの料理とかおせち料理のカロリーの計算だとか、食塩量とか、そういうのを熱心に説明されておりました。実際に餅が詰まったときに、看護師さんがその対処方法など実践をしながら、こういうふうにやるんだというふうな説明もされて、非常にわかりやすく、いい内容でした。

その後に、ドンパン節というミニ体操も、これはOTの方が一緒にやっています、リハビリテーションはいろんな方法があるんですけれども、遊びながら、楽しみながらやるというような風景もありました。皆さん結構盛り上がっていました。

続いて訪れたのが多摩の「みた・まちもりカフェ」です。ここは多摩区の三田にあり、生田駅から徒歩6分ぐらいの場所で、マンションの1階に設けているんですが、「三田サポートわなり」という市民グループと明治大学のまちづくり研究所が一緒になって企画してつくられた施設です。実際の運営費用は大学の研究費で運用されているということでした。

団地の近くにありますので結構住宅が並んでいるところなんですけれども、坂道が結構多いという点では、我々の宮前区に似た特徴のある場所につくられているのかなというふうな印象を受けました。

これは平日のカフェが13時から16時という時間帯で営業をされています。この日はあいにく大雨が降ったせいで、お客さんは2、3名しか来ていらっしやらなかったんですけれども、カフェを飲みながら、ざっくばらんにお客さんと一緒に会話するような風景も見られました。

それ以外に、住まい・暮らしの相談ということで、平日の11時から16時、相談コーナーを設けて、専門のケアマネさんとか、ファイナンシャルプランナーさん、建築士さん、あと子育ての経験者さんなんかいろいろ相談に応じている、そういうふうなこともやっているということでした。こういうふうにギャラリーを設けて地域の活動などを展示してお知らせしているということです。

カフェと相談以外には、貸しスペースということで、あいている時間帯に店舗を一般の方に開放するというふうな形をしていました。趣味とかサークル活動、講座などで活用しているということでした。

ただ、問題は、ここだけではないと思うんですが、カフェだけの運営ではかなり厳しいという意見が出ていまして、実際明治大学の研究費用で運営は行っているんです

が、実はこれは26年度末で研究の予算が切れるということで、27年以降は運営が厳しいということをおっしゃっていました。正直言って、やはりカフェの値段はコーヒーの安い単価ですから、それ以上の収益源は先ほどの空きスペースを貸してレンタル費用をもらうぐらいですので、正直ここで、半ボランティアで働いている方々の賃金を払って、あるいは家賃が今大学の費用でやっていますから、それがまるまる負担が来るとなると、運営が厳しいのかなと。新しい何かを取り組んでいかないと、やはり厳しいのかなというのが正直な感想でした。

この2箇所のコミュニティカフェを見た後に、今度第3回目はすずの家という、こちらは御存じの方も結構多いかと思うんですが、馬絹にある空き家を借りて、そこをデイサービスで運用していくというふうな形態でやっていました。

このすずの家というのは、すずの会という、20年来ずっとボランティア活動をしている方が運営しているところでして。当日行ったときも利用者さんがかなり来ていました。やはり長い間の実績と交流があるせいでしょうか。利用者さんからはかなり好評を得て、実際長く続けている理由には、2世代、3世代で続けてボランティアをやると。つまり、自分がボランティアをしているとき、要介護状態になった後も実際にケアを受けると。そのケアを受けた親御さんの子どもさんがまたボランティアに入るというような連動式で結構つなぎで運営されているので、かなり参考になるところで、厚労省のモデルの場所としても時々厚労省の方が見に来られているということでした。

実際に昼食の提供等、お風呂のサービスも行っているということでした。ただ、ほとんどボランティアで、実際お金をもらっているのは送迎のみの費用を幾らかいただいているということなんです。これは実際に事故とかあった場合の保険料も含めての費用ということで、ほかはほぼ、昼食代も実費負担ですから、実際に事業所の収益はほぼないということですので、ここも正直言って、かなり周りの施設だとか寄附で成り立っており、実際初期の改装費用70万というのも、これまでいろんな寄附でためたお金でやったということなんです。

利用者さんともちょっとお話をしたんですけれども、やはりここがあるおかげでかなり元気でやれるというふうなこともお話しされていましたし、鈴木恵子さんという方が代表者なんですけれども、改善率が120%と言っていました。私はきょうも地域包括の関係で行ってきたんですけれども、やはり病院に入るより地域で生活したほうが断然回復はいいということをクリニックの先生もおっしゃっていましたし、地域の関係者もおっしゃっていましたので、改善率が120%というのは確かではないかなと感じました。

先ほど言った運営費です。先ほどのコミュニティカフェもそうですけれども、実際に払える利用者さんが3割程度しかいないということなんです。あと、補助金が幾分かは

もらっているというんですけれども、これは家賃等経費を補うぐらいで、実際にそこに来ているボランティアの方々とか、それ以外の運営費は賄い切れないとおっしゃってましたので、この辺をどういうふうに考えていくかというのが先ほどのカフェ、すずの家ということでした。

先進的にこういうふうに取り組んでいる地域の事業所もありますので、高齢者の問題を考えていくときに、さきのカフェだとかすずの家さんみたいなボランティアとかで頑張っている方々を、地域住民も含めて、行政を含めてどうサポートしていくかということがやはり課題かなということを感じました。

宮崎委員長 川畑部会長さん、どうもありがとうございました。それでは引き続き、魅力発信と次世代まちづくりの部会の審議経過報告について、青柳部会長のほうからお願いいたします。

青柳部会長 それでは、次世代部会の活動を報告いたします。

まず11月20日、みやまえ歴史探訪ということでタイムスリップの体験をいたしました。11月21日、みやまえを流れる川を辿ってということで2回目、3回目が11月26日、旅はやっぱり、グルメめぐりということでツアーを体感いたしました。また、その後、ツアー体感の後に部会ということで、ツアーの反省点、あるいはそれに伴う今後の策というような意見交換をいたしました。

この3日間のツアーの中で、やはり天候が非常に意地悪した関係、本当に晴れた日は11月21日だけ、あとは途中から雨、あるいは最初から雨ということで、ちょっと魅力を探す上では晴れ晴れとした気持ちではなかったんですけれども、ツアーに参加した人たちはそれなりの楽しみを体感しながら3日間の行程を終わりました。

まず、3日間歩いている中で一番には、もうガイドブックができ上がって、これは一般で配布してもいいようなものと、あと宮前の歴史ガイド、これはそれぞれの地図が入っておりますので、これをもとにメンバーが歩きました。それと同時に、道中、我々ツアーを組んでいる関係で、道でお会いしたり、ちょっとバスの中でお会いしたりした方などから「きょうは何ですか」というお話も伺いました。そのときに、やはりネームタグが、非常に有効的に活用されたということをまず報告しておきます。

それでは、1日目、事細かく話をしちゃいますと、魅力が多過ぎて大分時間がかかっちゃいますので、手元にある資料を見ていただきながら二、三の補足という形で進めさせていただきます。

時間的にはそれぞれ3コースとも9時から昼食を挟んで、解散するまで約6時間、それぞれ路線バスを使って歩きながら非常にいい旅ができました。

では、1回目のみやまえ路線バス途中下車の旅、「みやまえ歴史探訪」ということで、タイムスリップ、それぞれの思いを込めながら地域を回りました。

まず、本来ですと、区役所前から目的地、そこのバスに乗りまして青少年の家に行く途中で、ふと会員の中から言葉に出ました「宮崎大塚古墳」、それだったら、近くにあるので歩いてみようということで、方向をちょっと変えまして、この大塚古墳というところに行きました。ここは大山街道の脇ということでお話を伺っていくと、大山街道を通った人たちが、ちょっと高台になっておりますので、その地域、位置決めされるようなところにあったというお話も伺っておりまして、ここ自体は地域の人知っているくらいで、周りに一切それを表示するような看板がなかったんです。けれども、民家の庭先というか、庭に入ってこのような石段を上がると、見晴らしのいいところに石碑もそれなりの古墳の供養塔という形で立派なものが立っております。これがやはり地域の人だけじゃなくして、我々も含めて多くの人に知ってもらえる1つの名所じゃないのかなという気がいたしました。

あと青少年の家を伺いましたけれども、ここ自体は本当に施設が立派に整いまして、恐らく皆さん方も御利用したり目にしていることはあると思いますけれども、四季を通してのセンターの中でのイベント、特にサマーキャンプですか、いろんな活動をする人たちがあそこでキャンプを張ったり、またそれなりの教室もありますので、大分活用されているようでした。それと同時に、中に入って建物の後ろを回りながら行きますと、いろんな木々が植樹されているんです。1本1本に木の名前が入っているということで、植物あるいは花を含めて、そういう興味のある方には持ってこいの観察の場だなと思いました。また、お化け灯籠、これもよく言われているものですが、実際に見てみると本当に大きなもので、こういう由緒あるというか、歴史的な物語がついている灯籠だということで皆さん感心しておりました。

ちょっと順番が逆になりますけれども、右側にある武蔵野音頭の歌碑、これも施設に入ったところには表示はされていましてすけれども、その歌碑の云われというのがあの状態だとちょっとわからないんですね。裏側に回ってみて初めて歌詞の説明があったので、なるほどと思いました。ちょっと気がついたのは、その歌詞にはやはり地元の云われというんですか、歴史を物語るようなことが歌となっているということで、本当に立派な地域の財産というか、文化が残っているなと思いました。ただし、やはり今であれば、どんな歌なんだろうということが興味深くなることもありますので、あそこに行けば、いつでもメロディーが流れるようなものもあつたらいいねという話も出てまいりました。

そこからしばらく宮崎のほうを歩きまして、軍標というのも我々が歩いたところでは3カ所くらいあったんですけれども、やはりその軍標の表示が一切なくて、左側あるいは真ん中で、全てあれが脇に置いてあるだけで、道を通っている人であればそのまま見過ごしてしまう。やはり歴史的なものがこういう地元に残っているということであれば、それなりの説明文というんですか、そういう看板なんかもあってもいいな

という気がいたしました。

それと同時に、真ん中を見てわかりますように、知っている方も恐らくいると思いますけれども、ここは非常に急階段なところなので、宮前というのには坂が多いのは重々知っていたんですけれども、こういうところで生活している高齢者の方はどういう形で生活しているのかなという気がちょっといたしました。

その次に、地元の100円ショップということで地場野菜を売っているお店がありました。ここはやはり地域性を物語るように、ちょっとしたお店が、朝採れというんですか、そういう形で売られている、新鮮野菜もそうですけれども、やはりそこには、一般のスーパーなどで買うのと違った楽しみですか、店主とのコミュニケーションがとれる、ちょっとすばらしい、そのようなお店なんかが区内には幾つもあると思いますので、こういうものも発信できればと思っております。ちなみに、メンバーは、これはうまそうだということで早速購入していきました。

それから、馬絹の古墳公園というところに行きましたけれども、ここもやはり高台にありまして、非常に整備された公園です。古墳の右側を見ていただければわかると思いますけれども、右側にはタイルで埋め込まれた古墳の解説板、あるいは高津区も入った形の周辺の地図が置いてありました。やはりそういうところに、ただ単に公園を楽しむんじゃなくして、遺産というんですか、そういう地域の特色を生かした公園づくりというのには感心しております。

あと、この馬絹神社は有名なところをごさいますて、やはり言われるとおり、すばらしい歴史の跡が残った場所でありまして、この境内に入った途端に、昔の風が吹いているというような声がメンバーの中から聞こえました。やはり神社仏閣では、きょうもそうでしょうけれども、必ずや日本のよき伝統文化が残っているように、節分ですか、そういうところにも伝統文化の云われ、根源がある場所です。

あと真ん中にありますのは鎌倉時代の源頼朝の袖掛けの松というんですか、そういうものもあのような形で誰が行っても見られるような、本当に歴史に興味を持っている方にはたまらない場所だと思います。

あと、この影向寺もメンバーの中でも初めて行ったということで、その影向寺の景観、すばらしさ、あるいはお話を聞いてみますと、感動しているメンバーが何人かおりました。やはり影向寺というのは、またうれしいことに、川崎市初、皆さん御存じだと思し、これが正式に発表されると思いますけれども、国史跡に、橘樹郡衙と一緒に影向寺が指定されるということで、非常にうれしい場所を先に見学した。こんなすばらしいものはやはり地元だけではもったいない、こういうものを広く発信できるような次世代の魅力の活動の中に入れていきたいと思っております。

その後、ここら辺からは雨がシャバシャバと降り始めていたんですけれども、この橘樹郡衙、ここなんかは本当に広い高台。高台ですから、当然見晴らしが非常によ

くて、ただあいているのであればもったいないなと思いましたけれども、やはりそのままの中で橘樹郡衙の歴史を感じるのも1つかなと。ただし、その中に何か昔の遺跡のモニュメントみたいなものができたらいいなというような考えも見て沸いてまいりました。奥のほうにその橘樹郡衙の説明あるいは、今、手前右のほうにありますけれども、その碑も大きな形で設置されておりました。

続いて、みやまえを流れる川を辿ってということで、この日は非常に天候がよく、自然の中に入り込んでいく中では非常にいい天候で旅ができました。

神社仏閣、そういうところを見ながら行ったわけですがけれども、やはり初めて見る人たちも中にはいたということで、宮前のよさを痛感した人たちがおります。

その歩いている中で、右側に大きくなっておりますけれども、宮前七不思議の1つ、という新しい発見がありました。これは見てみますと、マンションの上によきと立っていると。これは何だろうと。「自由の女神」ということらしいんですけども。ただ、その云われ、意図というのは地元の方に聞いても一切わからないということで、今後こういう、ある意味合いではユニークな七不思議あるいは名物になるかもわからないというようなことも、こうやって地元を歩いてみますと、発見できるというひとつのあらわれでございました。

このあとは平瀬川散策、平瀬川親水公園ということで、やはり矢上川、有馬川、平瀬川といった区内を流れる川、その中に特に、桜まつりだとかアユの放流とか、いろんな意味合いできれいに整地された川を散策いたしました。こういうきれいに手入れされている裏には、そこを保存する人たちの活動が忘れてはならない存在だということで、今後幾つか出てまいりますけれども、地域で活動している人たちの魅力、活動の魅力を伝えるのも宮前の大きな財産ではないのかなと思います。

あと、とんもり谷戸、ここも里山ということで非常に景観のいい、本当に自然の中での風を感じるすばらしいところです。やはりここも里山を保存する「とんもり谷戸の自然を守る会」という人たちを含めた、あるいはその作業に賛同した人たちが活動して保全をさせていただいております。つい最近、話を伺ったんですけども、国交省のほうからまちづくり大賞というすばらしい大きなものを受賞したということで、3月何日に、授賞式があるという報告も受けております。自分も実際活動を見させていただいたんですけども、このようにすばらしい景観を保つ裏には、活動されている人たちの御苦労があるということをお話しさせていただきます。

あと、ここから北部市場のほうに足を運んだんですけども、ここは一昨年までは区民祭が行われていた会場ということで、全ての方が足を運んだと思っておりますけれども、実際中に入って市場の様子、あるいはいろんなお店を見て回る、その楽しさ、あるいは買い物、これもやはりツアーならではの体感できる非常にいい場所でございますし、ここでお食事をしました。

続いて、これは菅生緑地の東地区になりますけれども、東、西という地区のある中で、本当に自然を満喫できる、あるいはお子さんを連れて遊びに出向く、そして人と人とが楽しく交流のできる場所だということも感じるような場所でした。

これは菅生緑地で水沢の森、やはりこれも自然の、そこにも書いてありますように、市民健康の森というのが各区にある中で、宮前区は菅生緑地の水沢の森というところが自然の森になっております。こども里山ということで、それを保全していただいている活動団体、そういう人たちの絶え間ない活動でいつまでもすばらしい里山として残っている。こういうところで学校の生徒さんあるいは自然観察なんかの教室が開かれているということで、非常に貴重な宮前区の財産だと思います。

続いて3日目、「旅はやっぱり・グルメ」ということで、旅の中で楽しめる1つのテーマとして、グルメを回りました。この日も朝から雨ということで、スタート時点も、雨の中、出張所のほうからとことこと歩いて、まずは地場産、地場野菜を売っている野菜の直売所に出向いたんですけれども、そこはあいにくお店がシャッターをおろしてお休みということなので、急遽次の目的地、大木養鶏場、うみたて卵ということでお店にアポなしで伺いました。通りに面したところなんですけれども、庭の中に入ると非常に広い敷地で、お店では朝採れた卵を出荷する状態の忙しい中にお話を伺っていたんですけれども、約7000羽とっておりました。7000羽の養鶏をしていると。それで、毎朝毎朝出荷する準備、また、今、お店とは道路の反対側にあるんですけれども、HE-BARA NO MEGUMIということで非常に名高い卵を自販機も置いて養鶏場をやっております。

ただ、ここでちょっと提案してみたんですけれども、今、庭は非常に広くあいていて、ただ単なる卵を売るだけではもったいないなど。何か卵を使ったもので広場をカフェ的に開放できないですかと言ったら、どうもまんざらでもなさそうなんですけれども、ただ、ちょっと人手がないというようなことも言っておりました。実感としては、我々も行ったときに、雨の中、自動車で購入に来るお客さんもおりましたので、非常に名高い地域に溶け込んだHE-BARA NO MEGUMIということで、大きな目玉、宮前区の観光というか、お土産というか、産物の大きなものだと思います。

このべったこ本社・物流センターというところも、こういうのは路線バスのいいところなんです。バスが来る間に、ちょっとあたりを見回して看板が見えたので、あそこは何だろうということで、アポなしでここも行ったんですけれども、居酒屋を7店ほど経営している物流センターなんです。実際に調理もして、具なんかも売っているし、そこにも書いてありますように、焼酎とかオリジナルの商品が並んでおりました販売もしているんですけれども、毎朝毎朝仕入れに伊東のほうに市場に出向いていると。疑問が出たんです。せつかく近くにある北部市場で、なんで買わないんですかと聞いたら、市場に卸されたものと実際に漁港に上がって持ってくるだけの時

間、そういうものを計算したら、向こうに行って鮮度のいいものを買ってきてお客さんに提供するというような話で、ちょっとがっかりもしたんですけども、こだわりがあるんだなということで、恐らくここなんかも余り知られていないかとは思いますが、寄ってみて非常におもしろいお店でございます。

続いて、これは駿河屋さんすけれども、このおかみさんが非常に気さくな方で、区民祭とかいろんな区の行事に参加していただいているわけでございますけれども、おかみさん自作の納豆の歴史というものをを見せてくれて、我々見学者にいろいろ説明していただき、甘納豆の歴史を、非常に興味深く伺いました。

あと発酵蔵カフェかもし堂というところも、つい1月末までの営業で、川崎区のほうにもう引っ越してしまいましたので、新しい形の発酵食品で、宮前もちょっとまた違ったお店ができたなと思っていたんですけども、残念ながら区を去りましたので、このお話は終わらせておきます。

あと、デリスタスエヒロ、いろんな惣菜なんかも自家製で売っているということで非常に人気のあるお店でございます、やはり地場の野菜もお店の前で並べているということで、かなりの集客のあるお店でございます。

あと、カーディナル川崎、ここもやはり名前は売れておりますし、工場の中を見学させていただいたんですけども、ロールケーキは「宮前ロール」という非常に名高いものがあったんですけども、東京のホテルに卸すときには「宮前」ととっちゃったロールケーキということでした。なぜかと聞きますと、知名度の問題で、宮前というのはつけられないような話を伺いましたので、工場の責任者に、次はもう宮前と堂々と名乗ってもらえるような形で宮前のPRができるように頑張りますということで見学を終わらせていただきました。

そして、ツアーの後の12月22日に、ツアーの感想ということで会員それぞれ思い思いの話をいたしましたけれども、事細かいのは資料を見ていただければわかると思いますが、路線バスということでは、この地域をバスで動こうとすると、非常に兼ね合いの悪いような時間帯もあるので、ましてや市営と東急が入っている関係で、我々みたいにツアーを組んで1日めぐるようになりますと、東急と市営が提携された一日乗車券というものがあればいいなということは皆が感じた感想でございました。

宮崎委員長 青柳部会長さん、どうもありがとうございました。

大変すばらしい地域資源というか、観光資源があちこちにあるように伺いましたが、まだまだもう少しブラッシュアップというんですか、そのようなことをすることによって、結果として全国銘柄に一步二歩近づく世界があるのではないか、そのように感じております。

それでは、何か御意見のある方、さきの高齢者部会と今の次世代部会のそれぞれに関して一言二言御意見をいただければと思っております。

大槻委員 私は、魅力発信と次世代まちづくりの部会でございますけれども、これは今説明があったように、いろんな発見があるわけでありましたが、宮前区のいろんな案内というのは冊子にいろいろできているのがあるわけです。宮前区のガイドブックとか、宮前区歴史ガイドまちあるきとか、「宮前区ガイドブック」「宮前区歴史ガイドまち歩き」「みやまえガイドマップ」とか、或いは、「宮前歴史ガイド」とか、そういう既にできているのがいろいろあるわけでございますけれども、今回のいろんな発見とか歩いた結果をどういうふうにとまとめていくのか。やはりこういうような前につくっているガイドブックとかそういうものと融合して、こちらからそこに提案してまとめていくような形をとるのか、また新しい形でつくり直すのか、こういうことを1つ考えておかないといけないのではないかというのが1点です。

それから、やっぱり宮前区の魅力を宮前区以外のところに発信するのが重要と思う。発信というのはどこに発信するのかということですが、宮前区の中に住んでいる方に発信するというのがさっきの形ですが、宮前区以外のところにも発信して、宮前区の魅力を伝える、あるいはそういう魅力あるものをつくっていくということが大事なんじゃないかなと思いますので、まちづくりとの関連という面では、魅力ある宮前区まちづくりと連携させて、宮前区以外の方々に対しても関心を持たれるように進めるべきではないかという2点を挙げたいと思います。

宮崎委員長 ありがとうございます。全くそのとおりだと私は個人的には思っております。例えば川崎の環境展とって、等々力のアリーナなんかで毎年開催されているようですが、隣の高津だとか中原だとかいろいろなところで情報発信をやっておられるんですけども、宮前区はまだまだそこまでいかないのか、遠慮されているのか、そういう感じが私は非常にしています。特にみやまえカルタという、あれは名古屋かどこかでたまたま小学生か中学生がそういうかるたを地域の資料をベースにしてつくったと、それはNHKの全国放送で流れていたというか、そういうことを何回か知っていますので、ぜひそういったことも積極的にやっていただきたいと感じております。

田辺委員 今回の同じ情報発信に関して質問させていただきたいんですけども、多分今回発表していただいたのは、情報の中身というか、これから情報発信するに当たってどういう宮前の魅力があるかということ調査された結果だと思うんです。恐らくこれから審議されていかれるのは、そういった情報をどう発信するかということになってくると思うんですけども、そもそも何の情報も誰に向けて、ターゲットはどこなのかというところがいまいまだ明確でない。今、大槻さんがおっしゃった後半の部分は一部おっしゃっていましたが、宮前区内の人たちなのか、外の人たちなのか、あるいはもっと世代的に分ける方法もありますし、そのところが私は今後期待したいなと思うことなんです。

逆に言うと、では、そういう情報をもたらした人たちにどういう行動を期待するのか、そこを考えると、逆にどんな情報を与えればいいのかというのが見えてくると思うんです。例えば、外部の宮前区外の人に情報を発信するという場合、では、宮前区に住んでほしいのか、そこまで私は考えてもいいと思っているんです。

ちょっとネガティブなことを言いますと、最近宮崎台、宮前平あたりにどんどんマンションが建っています。それが果たして既存の宮前区の人たちにとってハッピーなことなのかどうか。よく言われるのは、宮前区は非常に緑が多い、畑も多い、農家さんも多い。だけれども、それがどんどん削られていくような結果になるのであれば、果たして外部に情報発信するのがいいことかどうなのか、これも考えていただきたいし、若い世代ということをもし意識されるのであれば、きょう御紹介されたようないろんなお寺とか古墳もいいですけども、これは恐らくお年寄りの散歩のためにはいい情報かもしれませんが、本当に若い人たちがこういう情報を求めているのかどうか、そのあたり、もうちょっと若い人向けの情報を考えていただいてもいいじゃないか、そんなふうに思います。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

中里委員 私も、次世代というか、魅力発信のほうでツアーに参加したんですけども、今、田辺委員のお話もありましたけれども、回ってみまして、宮前区は本当に古いものも大事にしているなど、自然も大事にしているなどというふう感じたんですけども、ガイドブックのようなものもたくさん何種類か出ています。現場に行くと、見過ごしてしまうんですね。あれだったんだよと、あれがそうだったんだということで。感じたのは、本当にその説明されている看板みたいなものがその近辺にないんですね。ということは、そこに住んでいる住民の方もわからないというか、多分知らないんですね。余り愛着がないというか。

その辺で、それをどこに発信するかということなんですが、まずは地域のそこに住む人に発信と言っておかしいですけども、認識してもらおうという意味で、説明の看板が必要なのではないかなと私は感じました。その後に、他区なり県外、市外とか、魅力のあるものは発信すればいいと思うんですが、まずは住民に知ってもらうことが大事なのではないかなと感じました。

それと、今回史跡のほうで橘樹郡衙を見てきて、今回3月で橘樹官衙ということで国の指定を受けるということで、宮前区の影向寺も含めてですけども、行ってみると野原だけなんですよね。何もなくて、そこで何なんだろうなというのがありました。ただ、影向寺は立派なお寺で、重要文化財の薬師三尊像とか、県の指定のほかにも重要文化財もありますし、そんな中で、そのお寺を利用させてもらって、一緒に行った方で寺ゼミとかセミナーみたいなもので歴史を伝えたり、あるいは音楽会をやってもいいですし、そこで利用しながら何かできないだろうかというふうな話もありま

した。

また、史跡に関しては、橋樹郡衙に関しては、いろんな文献を読んだりすると、今発見されたのは正倉ということ。役所の本庁みたいなもの、本殿というんですか、言い方はちょっとわかりませんが、そこがどこにあるんだろうかということはまだわかっていないんですよ。そうすると、サスペンスじゃないんですけども、謎解きで、本庁はどの辺にあるんだろうかというような謎解きをかけながら、みんなあの辺、高津区だよ、宮前区にあるんだよとか、そこで宮前区と高津区が争ってもおもしろいんですけども、そんなことで話題を呼んだりできるんじゃないかなと思いました。

ただ、問題がありまして、そこに行くまでのアクセス、道が狭いんです。4メートルあるかないかぐらいの道しかなくて、大型バスが入っていけないんですね。将来的には道拡幅というか、そんな工事をしてもらって、大型バス、観光バスでも行けるようになればいいと思うんですが、差し当たって小型のコミュニティバスを、中原区の武蔵新城、高津区の梶が谷駅、区役所経由の宮前平から、その3本を橋樹郡衙、影向寺あたりまでコミュニティバスができればいいななんて思っています。とにかく今はアクセスがすごく悪いので、国の指定になっても、行く方法は、歩いて行きますけれども、ちょっと皆さん敬遠しちゃうんじゃないかなと思いますので、その辺が何か欲しいなと思います。

宮崎委員長 ありがとうございます。ほかにどなたか御意見、挙手をいただければと思います。

川田副委員長 本日は遅くなりまして申しわけございませんでした。3カ所高齢者部会のほうでは見学いたしました。まだその後、皆さん方と意見交換はしていないんですね。ですので、ちょっとこれは私個人の意見ということになりますけれども、宮前区も御他聞に漏れず、本当に高齢者がふえてきている。それも元気な高齢者が多い。元気であっても、いつかは疾患を持っていくという傾向にはあると思うんですけども、長生きするのであれば、いつまでも元気で長生きをしていただきたい。そのためには、地域がどういう支え合いをしていったらいいか、見守りをしていたらいいかということで、ちょっとサロンを見てもみましょうということで回ったわけですけども、例えばみたまちもりカフェ、すずの家にしても、本当に皆さん一生懸命やっています。宮前区のすずの家、すずの会は、本当にこれがボランティアでやるのというぐらい、掘り下げた支え合いというか、見守りをされていたんですね。

みたまちもりカフェにしても、皆さん資格をお持ちになって、いろいろな方面から支えてはいるんですけども、さて、私がそのときに思ったことは、本当に志のある方はどんどんやっていますね。ただ、その範囲はどうしても狭いものになってしまう。広くはなっていない。でも、それではやる方たちにも負担が行って、例えば、

ボランティアでやっているんだけど、ここまでやったら、もう有償じゃないとだめだよねというお話を聞きました。でも、あくまでも本当にボランティアというか、当たり前を支え合う地域づくりをすることが今後は大事ではないかなと思うんですね。

1つのところ、中身の濃いものを数少なくではなくて、そんなに深くはないんだけど、ちょっと近所で目にする方たちを見てあげる。ちょっとおかしいのかな、どうしたんですかというような、当たり前のことができる、そういったコミュニティーの場をどんどんつくっていったほうが、これは自分が本当に何かをやっているんだというんじゃなくて、当たり前でできることであれば、その人たちは負担がないわけで、それは別に資格を持っていなくても、どなたでもできることです。それは障害をお持ちの方でもできますし、お年がいった方でもできるわけです。そういった方たちをどんどんふやしていくということが区の活性化にもなっていくのではないかなというのを、今回この見学を通して改めて考えさせられました。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。続きまして、佐々木さん。

佐々木副委員長 次世代部会に所属させていただいています佐々木です。私も2日ほどツアーに参加しました。大槻委員とか田辺委員がおっしゃった、どこに向けて発信するかというのももちろん大事だと思っています。今回参加してみて、素直な感想としておもしろかったんですね。何でおもしろかったのかなと考えてみたんですけれども、いろんなガイドブックとかいろんな情報は今までもあるといえばあるんですけれども、あれは多分1人で回っていたらおもしろくなかったと思うんですよ。ということは、今回皆さんと何人かで一緒に回ったということと、あと、意外に詳しい人がいて、歴史の話とかおもしろおかしくというか、そんな感じでお話ししていただいて、「へえ」というのがたくさん随所にありました。ということで、多分ガイドブックじゃなくて、ガイドする人が重要なのかなというふうに1つ思いました。

私どもの部会ではないんですが、高齢者部会の方への御質問というんですか、1つ、いろんなカフェの運営費が大変だというお話、これはどこでも出てきていると思うんですが、例えば夜はあまり高齢者の方は一般的に使わないと思うんですね。その夜あいている時間を貸し出すというんですか、例えば英会話スクールみたいなものやってみて、生徒を集めて、そこで運営費を稼ぐという、何か稼ぐという視点は結構やっているところがあるのかなのか、私も詳しくないんですが、ちょっとそこを調査していただけたらいいのかなと思いました。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

それでは、時間の関係もありますので、最後に出席されている参与の竹田先生に一言御感想などをお願いしたいんですが。

竹田参与 皆さん、お疲れさまでございます。私は参与として参加をさせていただいてお

ります川崎市議会議員の竹田でございます。

皆さんの今のディベートをお聞きした上で幾つかお話をさせていただきたいと思えます。着座して失礼させていただきます。

まず高齢者問題に関する取り組みの部会についてなんですが、コミュニティカフェ、私もこういった仕事をさせていただいて、本当にいろいろなコミュニティカフェが宮前区にあると、紹介をして、自分で出向いて感じているところでございます。障害者の方々、またボランティアの方々が全体的にやっている、また精神障害を持たれている方が集まるカフェ、そういったところが本当に宮前区には多くあって、この宮前平周辺、あと私が今住んでいる鷺沼駅周辺にもあって、そういうところを知らないという方が多いので、そういったところも着眼点としておいて紹介をしていければと常々思っているところでございます。

先ほども御提言がありました運営費について、またボランティアの方々はどういったモチベーションでやっていくか、それが皆様にわかっていただけないというところで、尽きてしまうという部分があるので、そこら辺がやっぱり行政側も、また私たちも考えて紹介していかなければならないことだなというところが常々強く思っているところです。

諸外国なんかを見てみますと、いろいろと私もそういったところで取り組ませていただいて調べてみますと、本当にオープンなんですよ。普通の方々でもどこかみんなでお茶しようというところで、私たちだと、駅前の大きなところの喫茶店とかになりますけれども、地域のそういった喫茶店、地域の方々が行っているコミュニティカフェに行こうという話になっているというのが当たり前でありますので、宮前区の中でもそういったところが多くある。そういったところの社会を目指すというところで、また高齢者の方々、それ以外の方々も踏まえて、そういった場所づくりをしていくというところが必要なのかなと思いました。

それから、魅力発信と次世代まちづくりの部会についてなんですけれども、影向寺の話がありましたが、部会長からもお話がございました、国史跡としてこれから川崎初の発表が、タウンニュースにはもう出ていましたが、それも宮前区の魅力発信の1つだと思います。

それから、別に私はJA、農協さんから支援とか支持とか受けていないんですけれども、セレスモスが麻生区第1号で、第2号が宮崎台駅を下がった坂の下にできると。これはすごいことだと私は思っていて、宮前区は、皆さんも御存じのとおり、農業をされている方もいろいろといらっしやって、そこで地産地消、また地域でできたそのままの農作物を私たちが買えるというところはすごいことだと思いますので、いろいろと交通の問題等がありますけれども、これもJA、セレスモスさんの御尽力もいただきながら、宮前区としても魅力発信の1つにつながるのかなと思いました。

いろいろと魅力発信、私も宮前区出身なので、御報告いただきましたいろいろな魅力の地点、懐かしいなと思いながらも聞かせていただきましたが、おっしゃられたとおり、部会長からのお話にもございました東急バスと市営バスの連携した一日乗車券、これは必要ですよ。あと小田急バスさんとも、同じ川崎市内だったら1日そこで乗れるという乗車券があれば、500円、400円でもあればいいと思うんですけれども、これはちょっと市営側とも話をしていかなければならない問題でありますので、いま一度私自身もそれは議会において発言、発信して改善に努めたいと思います。

それから、済みません、話はそれますが、最後になります、川崎市議会、今月から開会されて、来年度、平成27年度の予算案について議論されていきます。そこにおいて、宮前区の区別の投資的事業費とか区における予算、また、区が独自で行っていく、この宮前区議会においても費されていく予算も、案ですが、決まってきました。これから市長が公式的に発表するので、詳しくは今申し上げるところではありませんけれども、やっぱり宮前区の区民会議で話し合われたことがもっと大々的に取り上げられて、大きく予算もとって、またお金もかけない部分も、かけずにできる部分もあります。しかし、かけざるを得ない部分、またかけて大々的にしなければならない部分、いろいろとあろうかと思いますが、本当に皆様にそれをちゃんと分けていただいて期待している部分が私自身にもありますので、これからのその点はどんどん積極的にやっていただきたい、やっていただければと思います。

済みません、長くなりましたが、以上でございます。ありがとうございます。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

それでは、引き続きまして、事務局から区民会議フォーラムの件についてお願いします。

岩下 資料の18ページをお開きください。今年度の締めくくりと申しますか、宮前区民会議フォーラムということで、先日企画部会で意見交換して検討した内容をもとに事務局でまとめさせていただいた案になります。こちらを今私から説明させていただいて、きょう皆さんに御意見をいただいて概要を決定したいと思います。

まず18ページから、タイトル、仮ですが、「みやまえふれあいサロンと路線バス途中下車の旅」ということで、これまでの両部会の企画、ツアー、視察等の内容を生かした企画で考えてみました。サブタイトルとして「気軽なおしゃべりサロンづくりと宮前の魅力を知るミニツアー」と書いてございます。

全体概要ですが、来月の3月15日日曜日午後の時間帯を中心に行います。ただし、バスツアーについては午前中ということで考えてみました。

会場ですが、区役所の4階大会議室、今皆さんがいらっしゃるこの会議室を中心に、廊下を挟んで会議室第1から第3、廊下も場合によっては使うような形で仮確保しております。

目的ですが、これまでの区民会議の組織、活動、今期の審議内容等を多くの区民の皆さんに広報、PR、アピールするということと、それに対する意見を少しでも伺う。それからさらに提案、まとめに向けて実験的な試行、取り組みもできたらいいということが目的にあります。

主な内容ですが、こちらにゼロから1、2、3とあります。まず午前中に路線バス宇宙下車の旅を行うということです。これは参加者事前予約制で、細かいコースはまだこれからの検討事項ですが、企画部会の段階では、例えば影向寺に集合していただいて、野川のあたりでしょうか、生産緑地等を訪問して、どこかで宮前区の名産と昼食をいただいてから区役所にお昼ごろに帰ってくるというようなコースで設定できるとよいねという話でした。1コースから2コースで運営できるとよいのではないかとということでした。

午後の具体的な会ですが、最初にまず、初めまして宮前区区民会議ですということ、開会の挨拶ですとか、両部会のこれまでの紹介等を30分程度で行いたい。中の1時間から1時間半程度はみやまえふれあいサロンということで、これは高齢者部会のサロンづくりも意識している内容ですが、参加者は自由に気楽にお話ししていただくような場で設定できたらいいねということです。ちょっと学園祭的な雰囲気という説明が適切かどうかわかりませんが、例えば大会議室全体をサロン形式で運営して、幾つか円卓を置いて、お茶菓子でおもてなししたり、おしゃべり、交流の場とするということです。その間、特に余りスケジュールをかつつり決めないほうがいいのではないかとということでしたが、途中、例えば演奏のパフォーマンスが入ったり交流が深まるようなゲームも用意しておいて、場の雰囲気に合わせて盛り込んではどうかというお話です。それから、いらしていただいた方には区民会議委員がおもてなしをして、審議テーマに関連した話題を参加者とお話ししたりきっかけづくり等も行うということです。

サロンの周りで、例えば廊下ですとか大会議室の周囲、外周に沿って展示紹介ブースを幾つか設置してはどうかという案でした。例えばそれでバスツアーで見た資源紹介ですとか、今後どういうふうなそれをアピールしたらいいかということ意見を伺えるような場として展示を幾つかしてはどうかということです。中の1時間半は、今までのフォーラムというよりは、サロンの形で自由に交流、楽しんでいただく。それから最後の30分程度を全体会で一度また皆さんに御注目いただいて、今回の趣旨説明、審議テーマに関する意見交換を行うというような形で考えてみました。

19ページからは、きょう皆さんに御意見いただいて決定をしたい検討ポイントについて幾つか記載しております。

まず集客、呼び込みの仕組みです。済みません、宮前区社会福祉大会と同日程ということがありましたが、これは資料作成時点ではそういう情報だったんですが、この

後、日程が変わったということで同日程ではなくなったということです。なので、この項目は削除をお願いいたします。

まず委員の皆さんから各所属団体ですとかお知り合いの方々にどんどん口コミで広げていくというのが最初にあるかと思います。それから市政だよりやチラシ等の配布もあるかと思います。

それから、この形式にする上で、できるだけ長い時間いていただくには、最初から最後までいていただくとか、聞いていただきたい区民会議の発表、報告の部分、その場にいていただくにはどうするかという議論が企画部会でもなされていました。

次のスタンプラリー形式というのは、企画部会で出していた御意見ではなくて、事務局、私のほうで案として入れさせていただきました。例えば受付でスタンプカードみたいなものを配って、バスツアーに参加したらスタンプ1つ、サロンの周りに設置する各ブース、展示を見ていただいて、何かそこでアンケートとか御意見をいただけたらスタンプ1つ、最後の全体会にいていただいたらスタンプ1つというような形で、そういう形式にしまして、例えば幾つ以上スタンプを押したら参加賞を上げますよというような形ではどうかなと考えました。

あと会場については、サロンのような雰囲気、より多くの方に来ていただける、特にこれは検討時点では社会福祉大会と同日という前提があったんですが、2階ロビーでやったらもう少しオープンで、通りがかりの人ももしかしたら来ていただけるかもねという御意見も出ていました。

以上が集客、呼び込みの仕組み1点です。

それから、みやまえ路線バス途中下車の旅のコースです。先ほど出ましたように、区役所ゴールの形がよいのではないかとありますが、基本的には区役所をゴールとして2時間程度、何か宮前区のおいしいお昼を食べて戻ってこられるといいねというようなことで、これも案内役、担当委員、参加募集方法等が検討課題かと思えます。

次の検討課題がサロンの仕掛けです。先ほどちょっとサロンの途中にパフォーマンスとか交流ゲーム、雰囲気に合わせてできるといいねという話が出ておまして、企画部会が出た案は、例えばこれは二胡という中国の楽器です。国際的なコンクールでも参加されているような中学生が区内在住の方がいらっしゃるということで、区内のほかのイベントでも演奏等もされているようですが、その方に例えば来ていただけるといいのではないかと。ということで、これは参加も内諾というか、お話を1回しているそうです。

それから、その場の雰囲気に合わせて、認知症サロンでもドンパン節の体操等がありました。そういったことがその場でもできる方をお願いしておくとか、その他ゲームを用意しておくということです。

あともう1つは、やはりただおしゃべりする中でも、区民会議委員でもてなして、審議テーマに関する話題もお伺いしたいということで、そのネタやきっかけになるものも用意しておこうということで、今回のツアーのパンフレットですとか、そういった資料をサロンの中にさりげなく配置しておくということも1つかなと。

それから、高齢者福祉の部門では、包括支援センターの関係者等にもぜひ来ていただいて、サロンに関する話ですとか、参加者の方の相談も受けられるような形にしてはどうかということがありました。

それから、会場設営イメージについても御意見をいただきたいところです。ちょっと喫茶店的な雰囲気なのかなと思っておりますが、何人かがけぐらいのテーブルがよいかですとか、こういう装飾があるといいねとかありましたら御意見を伺いたいです。

20ページ、続きです。次に展示・紹介ブースについてです。基本的にはただ展示して見てもらうということではなくて、参加者からも情報や意見が伺えるような仕組みにできるといいよねということがあるかと思えます。例えばということで幾つか書いてみましたが、今回のツアー内容に沿って考えますと、自然関係では、体験しよう！みやまえの自然ということで、自然スポットや楽しみ方の紹介、これは例えば自然分野から出ていただいている活動団体の方々にちょっと説明もしていただけるとよいかなど考えました。それから、見つけよう！みやまえの伝説ということで、今回ツアーの中で、例えばマンションの屋上の自由の女神ですとか軍標ですとか、ちょっとユニークなものを見つけたので、これはテレビ番組のもじりですが、何コレ珍百景ですとか、宮前伝説・トリビアという形でおもしろおかしく紹介すると、より興味を持ってもらえるかなと考えました。

それから、味わおう！みやまえの名産ということで、実際に試食できたりするコーナーがあるといいよねというお話が出ていました。例えば今回ツアーでお邪魔させていただいた駿河屋さんですとか、はぐるま農園にお話をして商品を試食できるような、みやまえロールや卵等も置いてはどうかということです。それぞれ委員の中で役割分担をしておもてなしができるとういかなと考えております。

それから、よりたくさんの人に来ていただく、喜んでいただく上では、何か参加賞があるといいよねというお話も出ていました。前期から参加されている方はわかるかと思いますが、前期の最後のフォーラムでは宮前兄弟のクリップペンのボールペンを配っておりました。実はそれが単価が150円から200円ぐらいだったんです。今回も同程度の予算は確保しております。ただ、カフェの演出にどのくらいお金をかけるか等もありますが、何か魅力的な参加賞の案があればお願いいたします。

事務局の1つ案として、ボールペンと同程度の予算でできるものとして考えたのは、例えばこちらの写真にあるようなマグネット、これに宮前兄弟の絵を入れたり、

宮前区民会議ということでつくって配れるといいのではないかと。余り邪魔にならずに、冷蔵庫に張っていただくと、日常的に目にする機会もあるので、多少PR効果もあるかなと考えてみました。

これについて案をいただいて、実はあと1カ月半後ですので、きょう大まかな部分は決めて、これからどんどん準備に入らないと間に合わない点もあるかと思しますので、よろしく願いいたします。何か補足等があればお願いいたします。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。何かこのフォーラムの件に関して御意見。

大槻委員 18ページにフォーラムの目的と書いてございます。その後に、組織活動、これまでの審議内容の広報、PR、その次に、審議内容に関する区民の意見の収集、それからパイロット事業の実践というふうになっておりますけれども、今、岩下さんから説明いただいたのは、この目的とその後書いてある内容とあまりリンクしていないんじゃないかと思われま。区民会議のフォーラムの目的は何だろうか。やっぱり区民会議の活動の内容を区民によく知らしめると。こういうような活動でよろしいんだろうかというようなことを聞くことが重要なのではないかなというふうに思うのでございますけれども、その点。

それから、ここで挙がっているパイロット事業というのは一体なんだろうと。この区民会議の中でいろいろ審議されて決まったんだろうか、どういうのを報告するのかなというところもよくわからないなということです。企画会議でせっかくまとめたのをいろいろ意見を言って混乱させ申し訳ありませんが、こういう基本的なところをお伺いしたいなと。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

岩下 私が答えるより、できれば企画部会の方が答えていただいたほうがいいかなと思うんですが。私でもいいですが。

川田副委員長 フォーラムを開く、これは3月に1年の最後のところで開くとなっているんですが、結局今までやってきたことの発表のようなものなんですが、今までそこまでまだ突き詰めた話もされていない。実際やったことは、ちょっと見学に行きましようというって見学をしたまでなんです。では、そこからどういうふうにして、私たちはどういう方向で話していこうかというのはまだこれからなんです。それがフォーラムの後になってしまうんです。だから、私も、このフォーラムをやるといっても、では、どういう方向でやりますよというのはまず示せないだろう。だから、結局高齢者部会のほうは、そういったコミュニティーの場を大事にしましようということで見学をしてきて、では、私たちが考えるコミュニティーの場というのはどういうものかということをやってみようという、まだ本当に途中経過でしかないと思うんです。ですから、これをやった上で、それでは、あとの1年間でどういう方向に持っていくかという、その確認の意味のものと捉えるしかないのかなと思います。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

佐々木副委員長 済みません、先に補足だけ。今御質問のあったパイロット事業ですけれども、一応想定しているのは、ゼロの路線バス途中下車の旅というものを、部会の中でそれぞれ委員が見学というか視察に行きました。それを市民の方に参加していただいて果たしてどうなのかというのがパイロット事業と捉えています。

大槻委員 これを事業としてこれからやるわけですか。

佐々木副委員長 事業と書いているからあれですけども、テストです。

大槻委員 事業というと、これから何かやるような感じになっちゃうのですが。

川田副委員長 事業とするからおかしいんですね。

佐々木副委員長 事業と書いていますけれども、テストです。

大槻委員 意味合いはそういうことですね。

佐々木副委員長 はい。

宮崎委員長 テストです。

黒澤委員 昨年も同じ企画をされた、実施された、こういうお話でしたね。これと同じ趣旨でフォーラムということを先ほどお話がありませんでした。言いたいことは、昨年と同じ趣旨でやられたかどうかなんです。やられたとすれば、その結果、どうであって、反省がどうであってというところのものがあれば、大槻委員のような御質問が出ないのではないかなという感じがしたわけです。

宮崎委員長 わかりました。

黒澤委員 では、なければないで。それで、ベースは、我々が1年間やってきたことに対してしましてこれから発表して、これからの方向性を出してやっていこうという考え方なんでしょう。

宮崎委員長 そうですね。

黒澤委員 そうすると、そこのお話は、先ほど反省会で我々が、地域魅力の発信の反省会でこれからどうやっていこうか、ここところは、ぱっと見たときに、私はプログラム概要のところ、路線バス途中下車の旅だとか、こういうのをやるんだ、これは我々の反省を踏まえてこうやっていこう、こういうのかなと思ったんです。これを魅力発信の1つだよということであれば、私が地域、自治会の関係でこれからPRしやすいんです。自分たちが1年間やってきたことに対して、これからこういう方向性だよということを訴えるにはとてもいい反省を踏まえてこれからやるわけだから。この方向性を出していただくフォーラムということであればいいと思います。

宮崎委員長 そうなんですけれども、現実問題としてまだまだ課題はいっぱい出てくるのであって、それを集約してどちらの方向に決めていくかという、その辺はまだここ1カ月、2カ月ではちょっと無理だろうと思うんです。だから、その辺がフォーラムのレベルと我々が最終的に目標にしているジャンル、そういうところとの乖離が多少あ

るんじゃないかなと思います。

川田副委員長 1年間ということだったんですが、実際動き出してから1年はないですね。まだ動き出してからそれほど場を設けておりませんし。ですから、本当に今度の3月でやるというのは余り掘り下げたものではない。ただ、区民会議の知名度を広く知らしめたほうが良いという目的もあると思うんです。区民会議というのが動いているんだと。内容というよりも、区民会議という名称をもう少し皆さんに意識していただきたい。あくまでも途中経過です。まだ途中経過ですから、途中経過だとはっきりした形ではないんですが、でも、路線バスをやりました、サロンを見ましたという、その中間的なものでちょっとまとめたものを皆さんに見せていこうかなという感じになると思うんです。

田辺委員 結論を先に言いますと、私は今回やめたほうが良いと思います。こんな中途半端な状態でやっても誰も来ないし、やるんだったら2年に1回、つまり我々の今期が終わるころ、つまり来年の3月ですか、そのときであればほぼ我々の提言ができていますし、区民の皆さんからのいろんな御意見もできて、さらにそれを踏まえて最終的なものをつくり上げることができると思うんです。ですから、今回のプログラムを見ても、先ほど大槻委員がおっしゃったような根幹の部分がほとんどなくて、あとお遊びと旅行と何かゲームをしてプレゼントは何にしようかと、こんなことは実にはばかっていると私は思います。

それと、もう1つ言うと、鶏が先か、卵が先かということですが、区民会議をもっと区民の方に知らせないといけないというのはもったもんですが、こういう方法で果たして区民会議のことを知ってもらえるだろうか、これは私は素朴な疑問があって、区民会議のPRについてはまた別途慎重にみんなで十分検討したいと思うんです。これは本当に決められたことだから毎年やるというのではなくて、企画課の方にも真剣に考えていただきたいんです。何のためにこれをやるのか。しかもこの時期に。これを私は強く言いたいです。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。かなり辛口な御意見があったんですけども、ほかにどなたか。

葛西委員 やるかやらないかという問題は別なんですけれども、この前の話し合いのところでブースを設けるという話のところを読んでも、この間の話し合いの内容とちょっと変わってきちゃっているという感じがして、みやまえカルタをつくった人たちとか、今まち協さんとかでも出していると思うんですけれども、いろいろ調べていらっしゃるような団体さんというふうな話だったような気がするんです。実際これを見ると、自然分野の活動をしている方だとか、トリビアの何とか、全然話が違っているような気がする。あと試食コーナーというので、私たちが出そうと思っているものを、まず自分たちがよく知っていないというか、地域のことをよく知っていないし、

それに詳しい人たちからちゃんと市民の意見として聞ける場ということだと思っていたので、そのこのブースの部分が何か違うような気がしているんです。

宮崎委員長 どうもありがとうございます。

佐々木副委員長 今、葛西委員がおっしゃったのは部会の中で話があったことだと思うんですけれども、今回のブースに関しては余り魅力発信のほうのテーマではなくて、もう1つの高齢者問題のほうを意識したブースになっています。やり方としては葛西委員がおっしゃったようなブースをつくることはもちろん人がいれば可能だと思うので、逆に私はやりますというのだったら、そういう感じの御意見も皆さんいただければと思っています。

宮崎委員長 どうもありがとうございます。

黒澤委員 先ほどの田辺委員のは緊急提案だと思います。3月15日にこれを私どもの委員がやるかやらないかというところ、緊急動議だと思うね。これはすごく大事なことじゃないんですか。ですから、まだ結論が出ていないですよ。魅力発信の仕方をどういうふうな形で魅力発信するかというのを大槻委員のほうから、区外への出し方をどうしたらいいか、区内でどうしたらいいか、地域でまとまってどうしていくかということについて具体的にまだこうしようというものが出ていないじゃないですか。もっと詰めてどうか、魅力発信をどうやってやるかということじゃないでしょうか。というところのものが我々の魅力発信グループが既にあるんですかどうですかですよ。ないのにこういうのを、もっといろいろ検討してやったほうがいいよというふうな状況であれば、これはやっぱりちょっと延期しようとかか、じゃないのかな。そういう緊急提案じゃないのかな。

田辺委員 そもそもこのフォーラムをやるやらないという決定権は我々にはないんじゃないですか。

宮崎委員長 私はないと思っています。

田辺委員 ないですよ。どうなんですか。我々はこれを審議するのが区民会議だから、フォーラムの実施時期とか内容とかを検討したことも一度もないし。

事務局（秋山） とりあえずこちらの運営に関しましてはあくまでも委員が中心で動かしますので、決定権は当然ございますので、この中で決めていただければと思います。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。なので、きょうここでそういう話をしてても多分時間もあれなので、後日……。

佐々木副委員長 決めたほうがいい。

川田副委員長 決めちゃいましょう。もう日にちがないのでね。私なんかはもうフォーラムありきで考えていたので、決定権が委員会の中にあるのであれば、今いいじゃないですか。御意見が出たんですから。

宮崎委員長 例えばやる場合は具体的にどういった形でやりたいのか、あるいはやめるん

だったら、それにかわる形のものがあるのかとか、その辺いろいろ議論を出していただくことが。

黒澤委員 やめるんじゃないくて、延期するかどうかということね。

大槻委員 だから、審議内容がちゃんと説明できるかどうかですよ。まだ方向が決まっていない中で。

宮崎委員長 だから、3月15日までには多分そういったディテールのレベルまではちょっと無理だと思うんです。

大槻委員 そうすると、この提案内容では、ただのお祭りかなという感じにならないでしょうか。

宮崎委員長 多分にそういった要素も、先ほど川田委員がおっしゃられたような対外的なPR、そういったものもかなりあるのではないかと私は思っています。

川田副委員長 今の段階ではそれしかないですよ。やるんだったらね。

小田委員 年度当初にフォーラムをやるということになって、計画はそれにも載っていますので、私はやるものと思っています。確かに1年近くやってきまして、まだ方向性もはっきりとしたところまではいっていない状態だと思うんです。でも、そこにいくまでのさまざまな活動を私たちはしてきたと思うんです。よく話し合いもしましたし、外に出かけていろんなものを見学して、それなりの宮前区のいいところなども見ってきました。ですから、途中、今やっているところまでのことをフォーラムでもし発表した場合に、参加者の中から、次はどういうふうなことをやるんですかと質問が出てくるんじゃないかなという気もしていますので、フォーラムが終わった次に進んでいくものもある程度は線を出しておかないと、よくわからないままに、私もよくわからないところがあって、参加した人たちも多分よくわからない方がいらっしゃるかもしれないと思うんです。

先ほど皆さんの中で、魅力の1つとしてやったらいいとか、魅力の一部だというようなことをおっしゃっていましたので、私もなるほどなと聞いていました。きょうの18ページ、19ページの、これはたたき台として私たちが検討していくわけです。とても詳しく書いてくださっているので、検討するものもなかなか詳し過ぎるくらいだなと思うんですけれども、例えばおしゃべりサロンなどは意外と今宮前区はさまざまなところでおしゃべりサロンをやっているんです。ですから、そういったことを見たり聞いたりしている方たちが見えるということもあると思うんです。そのときに新しいアイデアなども仕入れることができるかもしれないし、区民会議のおしゃべりサロン、このくらいなのかと思われるかもしれないので、やっぱり1つ何か独自性を持たせたものを盛り込んでいく必要があるんじゃないかなと思います。

それから、路線バス途中下車の旅、これも9時半から1時、これはたたき台なのでこのとおりじゃなくなるかもしれないですけれども、これもめぐるところは影向寺と

か生田緑地、宮前区役所など、これもまだこれから盛り込まれていくわけですよ。もう少しこういったところも入れようとかそういったのを。私は基本的にはこれではないのかなと。もうちょっとどこかとか、とにかくもう少し独自性を持たせてやるのがいいと思うんです。

本当に宮前区はさまざまなことをやっているグループがたくさんあるんです。いろんなアイデアを持っているんなことをやっているんです。そのところをうんと頭に入れて、何だ、この程度かと思われないように、そんなふうに思います。

大槻委員 今の小田さんの意見もあろうかと思うんですけれども、もしそうだとすれば、この区民会議の1年間の活動は、18ページの1の開会、初めましてということで、説明するのは13時30分から14時の30分間だけです。30分で十分説明できるんだらうか。もし開くんだったら、ここを十分に時間をとって説明して、いろんな交流のサロンとか何かで討議をするというような形にしないと、30分でこのところはおざなりで、あとは遊びですよというようなことでよろしいんでしょうかという感じがします。

宮崎委員長 わかりました。その辺、いろいろな視点から。

田辺委員 先ほどちょっと取りやめという過激な発言をしてしまったんですけれども、そうはいつでも、やっぱり行政の方もお困りだと思うし、区民会議のフォーラムの歴史に汚点を残すのも心苦しいと思っているんですが、1つの提案として、少なくとも我々今の5期の活動の説明は不可能だと思います。ただ、もし区民会議のPRということであれば、これまで第1期から第4期までいろんな提案があったわけで、その成果をパネルで紹介したり、あるいは場合によっては第1期から第4期まで務めていただいた委員の方にも来ていただいて説明するとか、こういう区民会議の成果発表という場なら可能かなと思います。少なくとも我々の今期についてはちょっと無理かなと思います。

岩下 皆さんの御意見をずっと聞いていた立場として幾つか発言させていただきたいと思いますが、まず、例えば次世代部会のほうで部会会議の中でフォーラムについて御意見を伺ったときは、もう少し今回のツアーについて、ワークショップ形式でフォーラムの参加者と一緒に何かツアーを考えるような企画ができればいいよねという御意見も出ていたと思います。ただ、それについては企画部会で先日話したときは、これは私の認識ですので、ちょっと違っていたらまた言っていただきたいんですが、余り区民会議の報告、そして御意見をいただきますというような形ですとかワークショップという形にすると、区民の方も構えてしまったり、余り来ていただけないのではないかなという御意見も出ました。そういった中で、もっと気軽な雰囲気でお話を聞きたいと。それから、高齢者部会で検討してきた高齢者の地域での居場所づくりについても、先ほどスライドの中でも出ましたけれども、もっと気軽な雰囲気でお話を聞きたいと。

せる場のサンプルとして何か考えられないかというような形で、ちょっと企画部会の意見交換を聞いていない方に関してちょっとびっくりするような形になってしまったかと思えますし、ちょっと私も説明が足りなかったと思うし、資料も悪かったと思うんですが、そういった形で、今までの意見から突飛な砕けた案が出てきたなという印象を持たれてしまった部分はあるのかなと思います。これに関してもあくまでたたき台ですので、また企画部会に参加されていない方の御意見もいただいて変更することは全然できると思います。

それから、中止という決断も絶対ないということではないですが、一応前回の全体会議等でも、フォーラムは3月15日にやりましょうということで確認は今まで何回かとっていますし、実は区民会議だより等でも1回3月15日ということで、簡単ですが、予告はしてしまっているんです。またそれをどういう形にするにしても、何もやらないという形になると、行政はお困りでしょうというお話もありましたが、その辺の説明責任と言ったらまた大げさになってしまいますが、その辺はまたしっかり合意した上で、中止にするにしても開催するにしても説明できるようにしておく必要はあるのかなと思います。

青柳部会長 フォーラム、今回初めてこの形で参加するようになります。それと、以前、区民会議の委員でないときに1度フォーラムに立ち寄らせていただきました。そこには人の集まりというか、区民会議あるいは宮前区という意識を持った人たちがその場に来たのかなということが印象、前回お邪魔したときにそんな感じが自分ではしたんです。でも、やはり自分がこのような形で中に入れさせてもらっている限りでは、フォーラムというのは、自分独自の考えなんですけれども、やはりそれは結論が出なくても、こういう団体の中で経過を報告する、理解してもらえ、あるいはその活動を広めていく1つの場ではないのかなという気がいたします。そういう意味合いでは、魅力発信も含め、あるいは高齢者も、現状を提言する1つのいい形の場で、その意見を逆に吸収できる場ではないかと思えます。ですから、それはあくまでも結果が100という形でなくても、区民会議ではこういう形でやっているんだという経過報告の場であっても私はいいと思います。

川田副委員長 今まで私たちがやってきたのは、私たちの視点から見ていろんな話し合いをしてきました。それでは、ほかの住民の方たちはどういうふうに考えているのか。それを例えばサロン形式にして、そちらのほうでくつろいだ状態の中で皆さんがどのような触れ合いの場所を求めているのかということを知りたいなという、そういった情報収集の意味合いも私は考えたんです。そこで、例えば路線バスをその前にやりますけれども、帰っていらっしやって、始まって、お茶を飲みました、お茶を飲んだときにいかがでしたかということで、宮前区の魅力を改めて、区民会議の委員さんではなくて一区民の方たちからお話をいただいて情報収集を持って今後につなげ

ていけたらいいなということも意味としてありますので、そういう面では、中途半端かもしれませんが、こういった方向で行きますよと出すには中途半端ですけれども、その方向を決めるためにはとても必要な情報収集の場になるのではないかと考えております。

宮崎委員長 ありがとうございます。

葛西委員 私はさっきからも、今回のサロンとかも情報収集ということに関して、例えば小さなすずの会とか、そういうところだけじゃなくて、もっと小さな小さな町内会の中のサロンのことをやっているような方もいらっしゃるんですよ。月に1回町内会でお茶飲み会をやりましょう、公園でお花見会をやりましょうという人たちもいらっしゃるの、そういう人たちに直に声をかけて情報交換しませんかという場にするのか、それとも全く一般的な、ただ、どなたでもおいでくださいというサロンなのか。

川田副委員長 実際今やっていらっしゃる方たちがいますね。それはもうやっていらっしゃるんですね。ところが、やれない方たちもたくさんいらっしゃいます。その場合、どうやってやったらいいのかわからないし、サロンというのがどういう形でやったらいいかわからない。今後は、地域住民だけではなくて、そこにある関係機関、包括もそうですし、介護サービスの方たちもそうでしょうけれども、そういう方たちがみんな入って、どこにいても情報が身近に得られるようなサロンがこれから必要になってくるのかなとは思いますが、実際本当に私どもの自治会でもやってはいるんです。私のところもやっていますし、黒澤さんのところもやっていますけれども、今回そこを出さなかったのは既にやれているからなんです。それがこれからどういうふうに膨らんでいくかはそこで考えていけばいいんですけれども、問題はやれていない地区がたくさんあるということなんです。そこのところで、では、どうしてできないのかということもちょっと考えていきたいですし、取り組みたいけれども、取り組めないのは何が問題なのかということもちょっと伺ってみたいと思うんです。

佐々木副委員長 済みません、ちょっと割り込んでごめんなさい。まず田辺委員からの重要な御提案があったので、そこを決めたほうが私はいいと思うんです。まずやるのかやらないのか。やるとなった場合、細かな話は全体会でやってもちょっと決まらないと思いますので、拡大企画委員会という形で、企画委員のメンバーとぜひ参加していただける委員の方で別途日を改めたほうがいいんじゃないかと思っています。

1つだけ、私もこの目的が本当にこれなのかどうかよくわからないんですが、私がイメージしているのは、前期、第4期、2年間やらせていただきました。私がイメージしている区民フォーラムの意義ですけれども、2年間このメンバーでやっていくんですが、私も3年前初めてこの区民会議に入って、誰も知らなかった中で、ぼつんととは言わないですけれども、入らせていただいてやっていったんですけれども、もち

ろん審議する中でいろいろ御意見を聞いたり、なるほどと思うこともありました。ただ、一番心情的に近くなったと思ったのは、実は区民会議フォーラムをイベントとしてやるときに、結構皆さんで役割分担をして協力していろんなことをやったんですね。そこで割と委員の中のチームワークができたと思っています。それが私は1年目の区民会議フォーラムの一番の意義だったんじゃないか。それで初めて次の年の部会でいろんな審議ができてきたというので、ちょっと私もこの目的が、実際中間なので、発表というのは正直難しいんですけども、そういう意味で違う観点からすると、ある意味チームワークづくりと、ただ、市民の皆さんのいろんな意見を聞いて次の1年間で審議しなくてはいけないので、そういう実際の意見を聞くという意味合いがあるんじゃないかとは個人的に思っています。

宮崎委員長 ありがとうございます。

時間も大分過ぎておりますので、基本的に先ほどの小田委員、青柳部会長さん、川田副委員長さん等々の皆さんの積極的な御意見によりまして、当然これは進めたいと思っております。あと、企画、実際の内容に関してもう少しいろいろ書いたほうがいいのかなど。

佐々木副委員長 決めたほうがいいと思います。やるのかやらないのか。まず挙手でも何でも決めたほうがいいと思います。

宮崎委員長 決めましょうね。やるということによろしいですか。内容に関して少し皆さんの意向を踏まえて、それは先ほど言われたように拡大企画部会をやると。そこで原則としてともかく従来どおりフォーラムは実施するというので、その内容に関して多少のアジャストはあるのではないかという感じで考えております。

佐々木副委員長 やるとすればなので、やるかやらないかを決めたいと思うんです。そうしないと、次に進まない。別にやらなくてもいいという話だったので、無理無理やる必要は私もないと思うんです。

黒澤委員 佐々木委員、すごくそのとき困るのは、こうやって区民会議フォーラムとかチラシができ上がっちゃっているんじゃないですか。どうなんですか。

宮崎委員長 だから、ともかくやることを前提にやっていきたいかと思っているんですけども、そういったことに関して。

黒澤委員 でき上がっちゃっているのにというのは気の毒だね。甘い言い方はしたくないけれども、でき上がっちゃっているのに。

川田副委員長 今までやるという方向でやっていて、反対の意見がなかったから恐らくこれになっているんでしょうね。だから、もう皆さんやるものだと思ってこれはもうつくられていると思います。

川畑部会長 このフォーラムの目的をもう1回整理したほうがいいかなど思っているんですけども、結局方向性は多分両部会とも決まっていけないというのはわかりますけれ

ども、例えば経過報告と、あとは住民との交流会、活動報告と交流会みたいな形の目的であれば、私は開催してもいいのかなと思っています。それが方向性をきっちり決めた上で住民から意見を求めるというのであれば、少し今の段階だと厳しいのかなと思っていますので、フォーラムの目的を整理したら、やるかやらないかまとめやすいのかなと思っています。

小田委員 このチラシにも載っていますけれども、とにかく始まったばかりのときにもフォーラムというのはありまして、このフォーラムをやるというお話も今までの区民会議のときにお話があったので、私はとにかくやるというふうに解釈しているんです。このチラシのところを見ると、フォーラムを開催いたします、宮前区の魅力を伝えるツアーの企画やふれあいカフェなどの企画を検討中です、検討中ですなんですけれども、区民の皆様の参加をお待ちしています、詳細は市政だより3月号でとなっていますので、魅力を伝えるツアーの企画、具体的に、例えば路線バス途中下車の旅の場合に、宮前区は影向寺とか、また影向寺だというんじゃなくて、影向寺は入れてもいいと思うんですけれども、それ以外にこんなところが、こんな歴史的なものがあつたのか、そういうところを1つ2つ入れると、ちょっと新しいところもわかるんです。

例えば横浜の港北区との境の細い昔の道があるんですよ。そういったところの入り口くらいでも皆さんを案内したり、あと、ちょっと持田和夫さんをお願いして、持田和夫さんのお家って茅葺きの屋根ですよ。私も一回見学に行ったかもしれないんです。井戸もありますよね。お願いをして、そこもちょっと入り口だけでも見学させていただくとか、余りいつもここ、いつもここじゃなくて、新しい、こんなところがあるのかというところをバスの旅のところに入れていくというふうにすれば、皆さん、新しい歴史的なものとか文化的な残っているものなどを知ることになると思うんですけれども、そんなふうに思います。

あと、平瀬川などだったら、もう知っている方もいらっしゃると思うんですけれども、どういう魚が、アユが遡上するとか、アユは有馬川でしたかしら、そういうふうな、えっ、そうなのというふうな目新しいもの、耳新しいものを入れると、すごく新鮮味が出て、参加される方皆さん関心を持たれるのではないかなと思います。

それからふれあいカフェ、これもいろいろなところで、私の知り合いなど個人のお宅を開放して会食会をやっているところもあるんです。さまざまにやっているところがあるので、先ほど葛西さんとか川田さんが言われたように、情報交換、うちはこんなことをやっている。利用者さんとか利用してもらうほう、利用する人とされる人、そういった方たちが情報交換して、新しいいろいろなやり方とかさまざまなアイデアを持ってやっているものをこちらが教えていただくというか、そういうふうなことでやったらいいと思ひまして、余りたくさん盛り込まないでもっとすっきりとさせてやったら、いろんなこと、たたき台なのにすごくたくさんあるんですよ。もっとすっ

きりとさせて、すっきりとしたところでみんながそれを了解して理解して取り組んでいくのが一番いいと思います。あと1カ月半しかないですから。

黒澤委員 その中で、今、小田さんのお話もそのとおりなんですけれども、私どもの出ている向丘地区の自治会単位から考えると、魅力発信というのは、魅力をどうやって伝えるかというのは自治会内なんです。大変済みません、向ヶ丘地区の自治会から出ていますので。そうすると、そういうところにどうやってというと、ここで魅力を伝える、今の小田さんのお話で現実伝わるのかなと。

私どもが具体的にお願いしたいと思うのは、この間ずっと回りました、それを例えばこういうプロジェクターで自治会単位にばっと出せるDVDなどをつくってくれるとか、あるいはそれに関連した寸劇みたいな、説明する方が来られて、ちょっとそういうところをお話ができる、寸劇してもらえるような企画をしてもらおうと、地域から、では、うちをやって、次はここよと、近隣自治会でずっと話ができるということの魅力づくりをしてもらいたいと思います。だから、小田さんのプラス私どもの自治会からの見方をお願いしたいです。

川田副委員長 今、小田委員が本当に、小田委員の言うことではったんですけれども、こちらに書いている魅力というのは、第5期の審議テーマを区民の方々とともに体験し、話し合う場として区民会議フォーラムを開催いたします、これが目的なんですよね。ですので、ここでいろんな話し合いをして、例えば黒澤さんみたいな意見があったら、そういった意見がありましたと、では、今後そういったものをどういうふうにして取り入れていくかということは今後それがつながっていくという感じですよ。そういう面では、ここでフォーラムを開くことは決してマイナスではないし、今後いいのかなと思います。

事務局（秋山） そろそろ議論も煮詰まってきたと思うので、最初佐々木副委員長の御提案いただいた部分で、まずはフォーラムをやる方向で、あとは拡大企画部会の中で後半で今いただいた意見をまとめるというような形で、そろそろお時間の関係もございまして、決というような形でとっていただいて、一旦この全体会の中ではフォーラムをやるやらないのところまではまず決定していただければなと思っていますが、いかがでございましょうか。

宮崎委員長 今の事務局サイドからの御意見に異議がある方は手を挙げていただくなり。

大木委員 私も1年目で、今ここでやるやらないと言われてもわからないですよ。やるのならやるで進めるしかないと思います。はっきり私の意見はと言われてもわからないということでもよろしいですか。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。皆さんおおむねやることに賛同いただけるような雰囲気でございますので、そういうことできょうはこれで……。

鈴木委員 やったほうがいいですよ。私も初めてなのでわからないですよ。隣の人ぐらい

しか顔と名前が一致しないのに、こんなことを言っただけは失礼なんですけれども、ただ、時期的に3月15というと、忙しいなと思うだけで、せっかく地域の方もそうでしょうし、区民の方と一緒に話せる場ができるのであれば、これは人が少なからうが多からうが、大事にして我々がやっていることを聞いてもらう、それでいいじゃないですか。私はそう思うんですけれども、やる方向でいきましょうよ。

青木委員 事務局の提案に賛成です。

宮崎委員長 ありがとうございます。それでは、そういうことで、とにかく近いうちに拡大企画部会を行いますので、御意見のある方はぜひ事務局に来て、御賛同、日程調整等々をさせていただければと思います。

きょうはもう事務局からの提案がないようでございますので、これで議事を終了させていただきます。

最後に副区長の締めを。

司会（豆白） 宮崎委員長、どうもありがとうございました。皆様、長時間にわたりまして御議論ありがとうございました。区民フォーラムにつきましては、また後日事務局から段取りその他を含めまして御提案させていただきますので、御協力よろしくお願ひしたいと思います。

皆様のお手元に、最初にお配りしています資料について各委員から御説明をお願いできればなと思っております。

まず、まちづくり広場ラブみやまへの御案内につきまして、田辺委員から御紹介いただければと思います。

田辺委員 皆さんお手元のこのチラシです。宮前区とまちづくり協議会主催による第7回まちづくり広場ラブみやまえが来週の土曜日市民館で開催されます。テーマはここに書いているとおりで、区民会議と似たような感じですけども、我々のほうは、実際にまちづくりをやっている市民活動団体さんのPRが目的でして、特に今回は裾野を広げたいということで、これまで市民活動に余り参加されていなかった方々を主眼に置いて多くの方々にまちづくり活動の実態を見ていただくというのが狙いです。宮前区には少なく見積もっても約500以上の市民活動団体があると言われてはいますが、そのほんの一部ですが、裏面にあります40の団体さんがふだんの活動をなるべく具体的にお見せしますというイベントですので、ぜひいらっしゃってください。

司会（豆白） ありがとうございます。昨年は大雪の中開催されたということで、昨年12月、大雪が2回降りましたので、土日のイベントがかなり厳しかったということなんですけれども。済みません、余計な話をして、時間がないですね。

続きまして、青柳委員から、皆様のお手元にあります「ぐる〜とみやまえ」をお願いできますでしょうか。

青柳部会長 自分自身、観光協会の情報記者ということで、ふだんある程度の区内の情報

を集めてちょっとした、これが発信できそうだなということを皆さんに知っていただきたく活動しはや5年になりました。その中で、やはりこういう情報紙というのは、タウン紙で自分たちが足で歩いて、物を見て、話を聞いて風に当たるということが、文章のうまい下手というよりももっと密接に相手が打たれるものだと自分なんかは思っておりまして、今回は1月1日、各町会を含めて行政機関に配付されまして、今回、表紙には野本区長にお願いいたしまして取材させていただきました、区内の魅力ということで話を伺いました。

この中でお話を伺った中で、3月ですね。遺跡が出たということで区長からもお話を聞いて、公園が整備された暁には遺跡の公表というか、PRを兼ねて公園整備のお祝いをするということなので、それも今回の記事に載せさせていただきましたので、ぜひお手元にして地元にある遺跡のすばらしさと公園はたくさん宮前の中にありますので、そういう形で公園遊びを含めて出向いていただけたらと思います。

あと「ぐる〜とみやまえ」も、情報紙、約1年、メンバー11人が足を使い、その場でお話を伺いながらつくられて、つい1月末にできたということで、転入者のみならず、区内あるいは区外のほうに発してもいいような内容になっております。その件でちょっと滝本さん、実感として。

滝本委員 こちら前期の区民会議でつくろうということになった「ぐる〜とみやまえ」2版目ができました。改訂版です。書き切れないことがこの中にいっぱいあって、削って削ってこの内容になりました。魅力というのは決まったものではなくて、どんどん生まれてくるもの、掘り起こしていくもの、育んでいくものということで、私たち記者11人と企画課と町の取材先にいった方々、いろんな協力でできました。

あとは、書き切れない以上に実感したことは、やっぱりやって楽しかった、知ることでもっと宮前区で楽しみたい、知らせたいという思いが強くなりました。そういうことでぜひ読んでください。

司会（豆白） どうもありがとうございます。「ぐる〜とみやまえ」につきましては、宮前区に転入した方に手渡しで1冊ずつお渡しするという形でやってございます。

「宮前の風」のほうの鷲ヶ峰遺跡というのは、鷲ヶ峰の西住宅のところに今度多目的広場が3月末にオープンいたします。簡単な運動スポーツ施設になるんですが、そこが川崎市最古の遺跡、鷲ヶ峰遺跡があった場所ということですので、その辺も広報していくというのが区長の「宮前の風」の右下のほうのコメントのところになってございます。

それでは、もう1つ、川田副委員長から宮前区の地域福祉計画のワークショップについてのリーフレットを皆様のところにお配りしておりますので、御説明をよろしくお願いいたします。

川田副委員長 お手元に黄色いもので「地域のまなざしづくりを目指して」というチラシ

があると思うんですが、今度2月19日に行います。これは今年度パート4になります。最初ここでは障害のある方を取り上げておまして、自閉症の方、視覚障害の方、それから精神疾患の方、そしてパート4といたしましては、その障害者の方を雇用して、現在55名の方とともにお仕事をされているというこの社長さんが見えます。実はきょうこちらのほうにお邪魔しまして、鎌倉駅からバスで材木座というところにあるところなんです。最初は普通のお弁当屋さんだった。障害の方も3名ほどだったんですけれども、今は55名おります。

きょうお話を伺ってとても印象に残ったのは、障害者の方を雇用することで企業が元気になるんじゃないか、それから町おこしになるのではないかというお話があったんです。そういったお話なんかもいろいろ聞かせていただきますので、障害者側の立場ではなくて、障害者の方を雇用することで、そちらで働いている従業員の方たちもとても穏やかに仕事をするようになって、やめる方がいなくなったという、そういったお話をしていただけますので、ぜひきょう区民会議のほうで紹介させていただきますということでお話をいたしましたので、お時間がありませんでしたら、ぜひいらしていただきたいと思っております。

司会（豆白） どうもありがとうございました。今、皆様のお手元にお配りした資料の御説明なんですけど、ほかに何か皆様、資料がなくても、こういうのがあるのではという情報があれば、お手をお挙げいただいて発表いただいて結構だと思うんですが、よろしいでしょうか。

それでは、事務局のほうから今後の日程につきまして小山係長から説明させていただきます。

事務局（小山） 企画課の小山です。今後の主な日程について御説明をさせていただきます。済みません、座って失礼いたします。

まず、お手元の資料の1枚目、次第のところから今後の主な日程とございますが、まず1つ目の四角でございます区民会議交流会でございますが、来週の月曜日、2月9日18時からエポックなかはらにて開催されます。参加される委員の皆様につきましては、直接現地、会場にお越しください。また、2つ目以降の専門部会、企画部会等につきましては、先ほど御議論の中で拡大企画部会の開催をということのお話もございましたので、また早急に事務局のほうから日程調整の御連絡をさせていただきますと思っております。そのため、本日お手元にこの黄色い紙で日程調整票ということでお配りをさせていただきますが、これについては特にお出しいただく必要はございません。また別途事務局から日程調整の御連絡をさせていただきますと思っております。よろしくお願いたします。

司会（豆白） どうもありがとうございました。今後の日程につきまして今お話がありました。近くは2月9日、エポックなかはらでの区民会議交流会ということでよろしく

お願いしたいと思います。

4 その他の連絡事項

司会（豆白） それでは、大変長時間にわたりましてありがとうございました。活発な御議論をいただきまして、当初の予定より1時間近く皆様に白熱の御議論をいただいたということで、区民フォーラムをいい形で開催できればなと思っておりますので、御理解と御協力をよろしくお願いしたいと思います。本日はこれで区民会議を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

午後8時28分閉会